

## 11. わびの<sup>せいしん</sup>精神

にほん でんとうぶんか  
日本の伝統文化という、ま  
さどう おも う ひと おお  
ず茶道を思い浮かべる人が多いの  
ではないでしょうか。さどう  
茶道という  
ものは言うまでもなく、さほう  
作法に  
したが けど ゆ わ ちゃ い  
従ってお湯を沸かしてお茶を入



の  
れて飲むことを指します。ちゃ げんさんち ちゅうごく  
茶の原産地は中国で、中国では相当古く  
からお茶を飲む しゅうかん  
習慣があったようです。にほん ちゃ の しゅうかん  
日本でお茶を飲む習慣が  
ほんかくてき はじ ぜんそう えいさい ねん りゅうがくさき ちゅうごく  
本格的に始まったのは、禅僧の栄西が 1191年に留学先だった中国  
からお茶の種と苗木を日本に持ち帰ってからだと言われています。

ちゃ  
お茶ははじめ大変貴重で薬用として使われていたようですが、お  
ちゃ さいばい ひろ ちゃ の たの しゅうかん じょじょ ぶし  
茶の栽培が広がると、お茶を飲んで楽しむという習慣が徐々に武士  
あいだ りゅうこう  
の間でも流行するようになりました。そして、16世紀後半までに  
げんざい つた ちゃ さほう ととの いま わたしたち め  
現在まで伝わるお茶の作法が整えられました。今、私達がよく目に  
するさどう ちゃ い せい き こうはん ちゃかい  
茶道は「わび茶」とも言います。15世紀の後半まで、茶会では  
ちゅうごく つた こうか どうぐ しょう ちゃじん  
中国から伝わった高価な道具が使用されていましたが、茶人の  
むらたじゅこう しっそ どうぐ さどう と い いらい しだい さどう  
村田珠光が質素な道具を茶道に取り入れて以来、それが\*次第に茶道  
しゅりゅう せんりのきゅう ちゃじん ちゃ かんせい  
の主流となり千利休という茶人が「わび茶」を完成させました。

「わび<sup>ちゃ</sup>茶<sup>せいしん</sup>」の精神は、不必要なものを  
すべ<sup>す</sup>全て捨て、シンプルさを大切<sup>たいせつ</sup>にすること  
す。利休は高価<sup>りきゅう</sup>な道具<sup>こうか</sup>は使わずに、「わび  
茶<sup>ちゃ</sup>」にあうような素朴<sup>そぼく</sup>な道具<sup>どうぐ</sup>を好んで使用<sup>この</sup>  
<sup>しょう</sup>



したのみならず、自<sup>みづか</sup>らデザインして製作<sup>せいさく</sup>したりもしました。そして、  
茶室<sup>ちやしつ</sup>の大きさも おお 畳<sup>たたみ</sup>二枚分の大きさにした上に、無駄<sup>むだ</sup>な要素<sup>ようそ</sup>をできる  
かぎ<sup>かいじょう</sup>限り排除<sup>はいじょ</sup>しようとししました。そして、お茶<sup>ちや</sup>をたてる人<sup>ひと</sup>と飲む人<sup>ひと</sup>の心<sup>こころ</sup>  
の交流<sup>こうりゅう</sup>を大切<sup>たいせつ</sup>にしようとしたのです。

利休はその時の権力<sup>けんりよくしゃ</sup>者<sup>とき</sup>であった豊臣秀吉<sup>とよとみひでよし</sup>によって切腹<sup>せつぷく</sup>を命じら  
れて 69歳<sup>さい</sup>で命<sup>いのち</sup>を落<sup>お</sup>とします。利休が切腹<sup>りきゅう</sup>を命じられた理由<sup>せつぷく</sup>はよく分<sup>めい</sup>  
かっていません。しかし、秀吉<sup>ひでよし</sup>は権力<sup>けんりよくしゃ</sup>者<sup>は</sup>だけあって派手<sup>で</sup>なことが好<sup>す</sup>  
きで、豪華<sup>ごうか</sup>な黄金<sup>おうごん</sup>の茶室<sup>ちやしつ</sup>をつく 利休<sup>りきゅう</sup>のわびの精神<sup>せいしん</sup>と対立<sup>たいりつ</sup>した  
ことが原因<sup>げんいん</sup>ではないかとも言われています。けれども、その真相<sup>しんそう</sup> \*\*は  
今日<sup>きょう</sup>でも分<sup>わ</sup>かっていません。利休<sup>りきゅう</sup>の死<sup>し</sup>の原因<sup>げんいん</sup>はさておき、彼<sup>かれ</sup>の死後<sup>しご</sup>、  
利休<sup>りきゅう</sup>のわびの精神<sup>せいしん</sup>は弟子<sup>でし</sup>や子供達<sup>こどもたち</sup>に受け継<sup>つ</sup>がれ、その後<sup>ご</sup>は彼ら<sup>かれ</sup>が家元<sup>いえもと</sup>  
になり、この世襲<sup>せしゅう</sup>の家柄<sup>いえがら</sup>を通して、その精神<sup>せいしん</sup>は代々<sup>だいだいつた</sup>伝えられて、今<sup>いま</sup>も  
日本<sup>にほん</sup>の文化<sup>ぶんか</sup>の大切<sup>たいせつ</sup>な精神<sup>せいしん</sup>の一つとして残<sup>ひと</sup>っています。

## 単語リスト：

原産地（げんさんち）	Nguồn gốc, nơi xuất xứ	高価（こうか）	Đắt, giá cao
禅僧（ぜんそう）	Thiền sư	主流（しゅりゅう）	Trào lưu, thịnh hành
苗木（なえぎ）	Cây giống	素朴な（そぼくな）	Mộc mạc, chất phác
貴重（きちょう）	Quý báu, đáng quý	切腹（せっぽく）	Nghi thức Seppuku (mổ bụng tự sát)
薬用（やくよう）	Dược liệu	黄金（おうごん）	Vàng, tiền vàng
栽培（さいばい）	Trồng trọt	世襲（せしゅう）	Kế thừa, cha truyền con nối
徐々に（じょじょに）	Dần dần, chậm chậm		